

故 鈴木 信 五 郎 教 授 を 悼 む

昭和41年4月18日朝鈴木教授は、突然にゆかれた。母校関西学院にその生涯の殆んど全部を奉仕された功績によって社会学部葬をもって送ったのであった。

教授は学院卒業後米国に留学され、帰国して母校に勤め戦争による学内再編成によって中断したが、再び学院にもどられ、社会学部の設置にあたり大道前学部長の熱心な懇請によって商学部より社会学部に移られたのである。学生は先輩としての先生の人柄にひかれ、その研究演習志願者は毎年多過ぎて困る程であった。教授は我が国における広告研究の先駆者であり、数少ない研究者の一人であった。社会学部はその性質上マス・コミュニケーションの研究を志望する学生が多いが、教授はその一部門としての広告論やP・R論で学生を指導されたのである。

最近の大学教授は講義時間数やその他の仕事が多く、給与も民間会社の責任ある同年令者の給与水準より低く、研究と教育とに日々身心をすりへらしているのであるが、鈴木教授はその上御家庭において御夫人の長期の看護という仕事があり御苦労されたのであった。

大学のあり方が、すべての面で再検討さるべき時期にあり、膨張よりも内に充実する事を必要とする時に、鈴木教授を失ったことは誠に残念である。天にあって学院の将来を正しい方向に導いて下さるようお願い祈るのである。

昭和41年11月18日

関西学院大学社会学部長

余 田 博 通